

特別企画 シンポジウム

第1回 国際ソーシャルワーク協会 学術研究大会
大会企画シンポジウム2

<国内の外国人との共生施策について> 「日本の移民政策の幕開けか？ソーシャルワーカーの役割」

大会企画代表 森 恭子

第1回 国際ソーシャルワーク協会 学術研究大会の大会企画シンポジウムが以下のとおり開催された。

- テーマ「日本の政策の幕開けか？ソーシャルワーカーの役割」
- 日時：2024年11月30日（土）14:45-15:30
- 開催形式：ハイブリッド（来場およびオンライン）
- 場所：日本女子大学目白キャンパス 百年館201教室
- 内容
 - モデレーター：森恭子（日本女子大学）
 - パネリスト：
 - ・森恭子（日本女子大学）
「近年の外国人共生施策および入管法改正における福祉的課題」
 - ・南野奈津子
「外国人支援人材養成の展望：外国人支援コーディネーター養成の動きから」
 - ・神田歩（埼玉県ふじみの国際交流センター）
「外国寺院住民のワンストップ型の相談窓口（一元的相談窓口）～ふじみの国際交流センターの事例を通して」

【趣旨】

2018年以降、日本政府は外国人人材の受け入れ拡大にともない、各省庁においては、外国人との共生に関する施策に取り組んでいる。一方、最近の出入国管理及び難民認定法の改正により、難民申請者や永住者への風当たりがますます厳しくなっている。

外国人をめぐる急激な政策転換の下で、政府は外国人に対する支援の仕組みとして、各地域での相談窓口の設置や外国人支援人材の育成（外国人支援コーディネーター）の育成に取り組んでいる。

本シンポジウムは、昨今の目まぐるしく変化している外国人支援施策をめぐる動向を踏まえ、今後の福祉的課題は何か、支援体制の在り方、福祉専門職は何をするのか等について、考える材料を提供することを目的とする。